

## 式 辞

真っ白な残雪を頂く八甲田の峰麗しく、時に、往く冬を惜しむかのように冷たい風を吹き降ろしつつも、この館野が原の木々の芽も膨らみ、春の息吹を力強く感じる今日の佳き日。

御来賓の皆様のお臨席を賜り、保護者の皆様とともに、入学式を執り行うことは、この上ない喜びであり、教職員を代表し、厚く御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可した103名の生徒諸君、入学おめでとう。心より歓迎します。

本校は、「敬愛」・「勤勉」・「創造」の校訓のもと、大正15（昭和元）年に七戸町立実科高等女学校として開校して以来、今年で九十六年目を迎える県内屈指の伝統校です。また、県内初となる総合学科を開設してすでに四半世紀を経、教育に対する地域の多様な要望に応える高校として、多種多彩な教育活動を推進して参りました。

現在、新型コロナウイルス感染症の流行により、この地域をはじめ世界中の人々が困難な状況におかれています。このような中、皆さんご承知のように、デマを信じ込ませ、買い占めや転売をするなど、弱い立場の人々を貶める行動が見られました。

一方で、医療従事者の方々はもちろんのこと、関係する行政、団体、民間、個人が、それぞれの立場で、このウイルスと日夜、命がけで戦っています。東日本大震災の時もそうでした。自分の欲望に従って生きる人もいれば、自分を犠牲にして、なお人のために生きようとする人々がいることを忘れてはいけません。

私は、このような時だからこそ、本校への入学を機に、今一度、高校で学ぶことの本当の意味を、考えてもらいたいと思います。皆さんは、これから始まる三年間の高校生活の中で、社会で生き抜いて行く力を身につけなければなりません。では、「生き抜く力」とは何でしょうか。それは、このような困難な状況においても「自分の夢をあきらめることなく持ち続ける力」、「人として大切なことを見極める力」、そして「正義に生きようとする力」にほかなりません。

しかし、人は、弱いものです。大きな夢を達成しようとして、遠くを見すぎ、今やるべき、小さくとも、確実にやらなければならない大切なことを疎かにし、その、やらないことの積み重ねで夢を諦めてしまいがちです。

また、自分に同調する仲間だけを自分に近づけ、周囲に対する不満だけを増幅させ、本当に自分のことを大切に思い、叱ってくれる人を遠ざけ、自分を成長させるどころか、自分で自分を貶める人のなんと多いことでしょうか。だからこそ、この七戸高校で正しく学び、正しく努力しなければならないのです。

さあ皆さん。二度と戻ることのない15歳の春をここで出会い、ここで始めるのです。自分で決めたこの七戸高校での生活に覚悟をもち、私たち教職員ともに「人としてあるべき道」を求めて歩みを進めましょう。

保護者の皆様、本日は、おめでとうございます。この度は、感染症対策のため簡素な式典といたしました。私ども教職員は、この出会いをなにより大切にいたします。そして、一人一人のお子様的人格を尊重し、皆が充実した高校生活を送り、その能力をしっかりと伸ばすことができるよう、一丸となって努力することをお誓い申し上げます。至らぬ点もありますが、御協力を賜りますよう何卒お願い申し上げます。

結びに、本日御列席いただきました御来賓の皆様方に重ねて感謝の意を表しますとともに、あらためまして、103名全ての新入生の皆さんの高校生活が実り多いものとなることを祈念し、式辞といたします。

令和3年4月7日

青森県立七戸高等学校  
校長 森田勝博